

【千葉銀行一宮支店長賞】

いしはら ゆういちろう
石原 裕一郎

胎動からの贈りもの

石原 裕一郎

拝啓 おふくろ様。

僕もおかげさまで来年の春には、初めてお爺さんになるんだよ。

胎動の始まったお腹を、大切にさすっている娘の姿を見ていると、

毎日が微笑ましくてしかたがないんだ。僕はこんなとき、幼稚園の送り迎えをしている後ろ姿を想い浮かべては、一人でニヤニヤしていたりするんだよ。

それでね、迂闊にも「孫が成人するまでは俺が守り抜いてやるからな」なんて

軽はずみなことを口にしたりするから、婆に窘められているところだよ。

おふくろも僕が胎動を始めたころは、「元気で産れておいで」と願いながら

命がけで産んでくれたんだよねこんにち

だから、初孫の胎動が始まった今日まで、例え異国の地で倒れても年齢を重ねることができたんだ。

胎動の時のおふくろの願いが叶った証しだと思っています。

家族の中で生まれ育ち、今日までの自分たちを築いてきた私たちは、

また新たな家族を形成しながら絆を育てていくんだね。

そんなおふくろの深い愛情を次の世代にも託すことができる喜びは、温かい家庭を描いてきてくれたおかげだと感謝しているところです。

家族を好きになるということは、意欲ある人生にし、前向きに生きようとする原動力になることを、衰えた身を削りながら教えてくれたのですね。

そんな温かい想いをありがとう。

おふくろさん。

(東京都 / 56歳 / 男性 / 作業所へ通所)

母との思い出と娘の妊娠が重なりました。